

最適な土壌、教えます

エーディエス(千葉県柏市、後藤秀樹社長)は田畑の温度や水分量などを分析して最適な栽培条件を導き出すシステムを開発した。土壌に埋め込んだセンサーからデータを集めてサーバーに蓄積する。顧客が自ら分析するほか、同社が過去のデータと照らし合わせて最適な肥料の量などを助言するサービスも用意。栽培経験が乏しくても一定の収穫が期待できる。大規模農家や農業生産法人などの需要を見込む。

開発したのは農業用センサーネットワーク「ハルサービュー」。農地の土壌に埋め込んだセンサーのデータは、サブセンサーポスト、メインセンサーポストを経て、サーバーにデータを蓄積する仕組みだ。乾燥などの異常を検知した場合は、メインポストから直接、スマートフォン(スマホ)などにメールで連絡する。

サーバーに蓄積したデータは顧客が自ら集計、分析できるほか、エーディエスが蓄積したデータをもとに、肥料や水分量、収穫時期など作物ごとに最適な対応をアドバイス

田畑の肥料・水分、スマホに

エーディエス センサー活用システム

コメなど、来年初から

する。システムは顧客の農地や栽培作物に合わせて構築することが可能で、導入費用は10万円から。このほか年間10万円程度のメンテナンス料やエーディエスによる分析、助言の費用もかかる。17年

1月から本格販売を始める方針だ。

同社は東日本大震災後の2011年6月から産業界技術総合研究所などと組んで福島県で放射線量を測定しデータ化する実証実験を行った。この際に水田の土壌を調査し、各種データとコメの作柄との関係を分析した経験を持つ。昨年から琉球大学と共同で沖縄県のマングローブやサトウキビについて同様のデータを収集、分析している。

このため分析や助言サービスはコメ、マングローブ、サトウキビから始め、来年2月をメドにトマト、

レタスについてもアドバイスできる体制を整える。

同社は03年設立で、地方議会や大学など向けの映像配信システムの開発・販売を手掛けているが、福島での放射線量測定を機に、土壌データの集計、蓄積、分析などの分野に進出した。16年3月期の売上高は1億2000万円。農業分野への進出などを通じて5年後に年間5億円の売上高を目指す。

